

政策 3

子供の未来を守る政策を！

弱視の子供を救え！3歳児健診の受診率、港区が最下位！



みなさんは、弱視という症状をご存知ですか？
子どもの目の機能は生まれてから発達を続け、6歳までにほぼ完成します。

生まれつき強い屈折異常(遠視、近視、乱視)や斜視がある子どもは、3歳の時点で約3~7%近く存在しており、自然に回復するケースも多いのですが、3歳児健診時において弱視の可能性が見逃された場合には治療の機会を失い、目の機能が完成する6歳になると治療の効果はほぼ期待できなくなり、メガネなどを使用しても十分な視力が得られない症状になってしまいます。

これを弱視と言います。

しかし、3歳から治療を始めて5歳頃までに終わらせることができれば9割の子どもは矯正視力で1.0まで回復できると言われています。

この視力検査の1次検査は親が家庭で行うものであり、弱視の方の7割が、家庭で行う検査を合格としていました。

こんなお面をつけて、3歳の子供がじっとしているわけがないと思います。

「まあ、大丈夫」と「問題なし」に丸をつけた親は、一生後悔の念を背負い続けることになるかもしれない。

僕は全ての3歳児を機械による測定で判断するようにしたいと提言し続けています。

港区の3歳児健診の受診率は、都下のランキングで常にワースト1であり、毎年100名以上の子供が弱視の治療の機会を逸している可能性があります。

最新の測定機械なら1秒で、泣いていても屈折異常を判定できます。価格は120万円。

この機械を持って、保育園や幼稚園、家庭と訪問し、全ての子供に弱視治療の機会を提供する仕組みを作りたいのです。

一生を左右する3歳における視力検査を一人も漏らさず受けられる行政サービス！

ご理解とご支持をお願いします。



1秒で両眼が測定できる最新医療機！



親の検査で人生が変わる！



プロフィール

1959年生まれ。港区の水辺を活動拠点とするNPOの代表として、カルガモの巣づくりプロジェクト、水辺フェスタ地域対抗ゴムボートレースなど区の代表的な水辺事業を立ち上げてきた港区水辺環境の第一人者。
港区の海を泳げるようにすることを人生

の目標と定め、港区の海が汚れるメカニズムを国の研究機関と共同で解明し、東京大学から水質検査機材の提供を受け独自に調査研究した水質データを基に行政に改善策を促し続けている。

また、防災に関しては、平成21年から都市のブラックアウト対策の必要性を訴え、東京港に流通する船舶燃料を非常用発電燃料として病院やマンションで活用する仕組みを構築する。元ジャガーのセールスマンとして日本ジャガーを売った男。37歳で販社の役員になり会社の再建時においては「錬金術師」と呼ばれた。40歳からは釣り



サラリーマン時代

のプロとしてTV番組を持ち、46歳からは芝浦アイランドに船舶免許学校を設立するなど5つの法人と、日本最大の団員数を誇る港区海洋少年団を立ち上げるなど多様な経歴と顔を持つ。港区議会議員2期。港区議会において唯一、小池知事を支持し、下水や港湾、防災など都行政への政策提言をしている。



釣りのプロ時代



趣味は子育て



国会議員時代から知事と共に！



もっと港区を
防災 環境 教育
子どもの未来と安心の港区を！

港区議会議員

えのもと 茂

政治家は夢を語らないといけない。それが仕事だと思っている。だから、明るい未来を語る。そして、絶対に諦めることなく、ひたすら前を向いて行動する。

榎本茂オフィシャルサイト
<http://enomotoshigeru.com>

区政報告レポートH31年3月1日発行
〒105-8511 東京都港区芝公園1-5-25
港区議会 都民ファーストの会

都民ファーストの会



カルガモの巣づくり



水辺フェスタ



海洋少年団



運河クルーズ

政策 7

泳げる海を！ 未浄化汚水の放流を止める！

高輪ゲートウェイという名の新しい山手線の駅の裏には、広大な下水処理場があります。

国会議事堂のトイレの汚水は、2時間でここに届きます。

ここは都内10区のトイレや台所などの汚水と雨水を処理する施設。

しかし、作られたのは昭和6年。当時、今の東京を想像して作られたわけもなく、現代の膨大な量の下水を処理しきれないことから、H30年に浄化せず塩素を混ぜただけの状態での運河に放流した汚水は、回数にして年94回、ほぼ3日に1回、量にして東京ドーム約14杯分になる約1700万㎡、全処理量の11%以上にもなります。

ぜひ、汚水の放流動画を見てください。
放流された薄茶色の汚水が運河を染め上げ、レインボーブリッジ、お台場へと広がっていきます。

僕の人生を賭けた政策課題は、この汚水放流を止めること。
平成17年に、僕が立ち上げたNPOは、国の研究機関と共同で運河が汚れるメカニズムを解明するとともに、汚水放流後は水質調査を行わない行政体制を指摘して、

雨天後の水質調査を実施させたところ、雨天後には海水浴基準の2000倍以上もの大腸菌群が区によって確認され、都の水質改善への取り組みは大きく動き出しました。



高輪ゲートウェイ駅の裏にある広大な芝浦水再生センター



必見！
汚水放流動画！



未浄化汚水の排水口



放流される未浄化汚水は30分でお台場に達する。



3kmまで貫通した直径6mの圧送管(参考画像)

運河に未浄化汚水を流さないために、現在、港区港南に建設中の下水処理場の新ポンプ場は、約950億円以上の巨費を投じ、深さ75mの巨大な縦坑を掘って7万㎡の貯留施設を作り、そこでも溜めきれなかった時のために、8km先の森崎下水処理場まで地下65mに直径6mのトンネルを通し、未処理下水を圧送するという壮大な計画です。

しかし、工事は難航しており、着工から5年が過ぎて、トンネルは半分の3km地点まで到達しましたが、新ポンプ場は未だ本格的な土砂の運び出し作業に至っていません。

今後、計画が縮小されることのないよう、東京大学から借り受けた水質検査機材をフル活用して独自に調査を繰り返し、下水道行政と向き合っていきたいと思います。



僕がガイドする運河クルーズ

政策 2

全国に報道される複本式防災メソッド

医 食 住 の防災対策

芝浦・港南・台場の臨海地区には、

総合病院がない

食料備蓄が足りていない

マンションは電気が無いと住めない

生活に必要な
3つが「ない」

致命的な弱点を補う新たな発想の防災体制を提唱しています。



食

震災時には肉を焼いて元気を出そう！

震災の時の非常食といったら乾パンとアルファ米。震災時にロウソクの下で乾パン食うことを想像しただけで、悲しくなる。

だから、僕は考えた。
震災時に肉を焼いて、ワインを飲んで過ごせないものだろうか？
港区の港南5丁目から続く京浜運河沿いには巨大な冷凍倉庫がたくさん林立しています。

僕は、港区内のすべての冷凍倉庫を回りアンケート調査を行ってきました。

港区内の冷凍倉庫には、少なくとも100トン単位の肉や魚、そして野菜が貯蔵されていることがわかりました。

そして、これら倉庫には長時間の停電に備えた設備は無く、長時間にわたる停電が発生した時には、倉庫の中にある肉や魚、野菜は大量の生ゴミと化してしまいます。

そこで、区内の倉庫業者が荷主と保管契約を結ぶ際、区が震災条項を定め、震災時に荷主が冷凍食品を抛出する場合は区が買い取るという政策を港区に提言しています。

区は、平時における維持費も、備蓄非常食の品質保持期限の心配もなく、震災時に原価で新鮮な食料を入手できることになり、倉庫業者は震災時に荷の品質保持の責任から解放され、荷主は預けた荷の原価が保証されるだけでなく、生ゴミと化した莫大な量の産業廃棄物の処理費用をも免れることができます。



運河沿いの巨大な冷凍倉庫には肉、魚、野菜が何百トンも眠っている！

震災時に、冷凍倉庫から抛出してもらった大量の肉や野菜を防災公園で焼いて食べて、家から持ってきたワインで皆と語らう方が、元気になるに決まっている！
実現に向けて、一人奔走中です。

住

日本初の取り組み！ マンションの非常用発電機燃料を海から調達する！

平成21年から首都のブラックアウト対策を訴えてきた複本式防災！

「停電が想定される7日間、高層マンション住民は部屋の中で耐える」区が決めた在宅避難の方針に異を唱え続けてきました。停電したマンションは、火災報知器も、スプリンクラーも、館内放送設備も、非常用エレベーターも、トイレの汚水の排水ポンプも作動しないので、僕は電気の無いマンションに住むことが危険だと訴え続けてきたのです。特に真っ暗闇の非常階段で発生する可能性の高い、将棋倒しによる圧死事故の危険を訴え続けてきました。そして、電気が無いなら作れば良いと、東日本大震災が発生する2ヶ月前の平成23年1月

17日、東京港に流通する船舶燃料をマンションの非常用発電機の燃料として調達し、震災時の長期停電に備えるという僕の取り組みがNHKのニュースで全国に報道されました。まだ誰も、地震で大都市が電力不足に陥るなど考えていない時のことです。

しかし、僕の指摘は現実となり、H30年に発生した北海道の大地震では、北海道全体が停電し「ブラックアウト」という現実を目の当たりにすることになったのです。現在、僕が設立した(社)湾岸防災ネットワークは高層マンション50棟が一週間、毎日8時間発電し続けられる500KLもの船舶燃料を確保してマンションに給油できる体制構築に取り組みしており多くのTVや新聞で報道紹介されています。

医

病院には船で行くドクターボート構想！

震災時、港区の医療体制は「慈恵会」「済生会」「北里」という3つの災害拠点病院に集約されます。しかし、いずれも内陸にあり、震災時は救急車が機能しない可能性も高いため臨海部の傷病人の搬送は困難だと想定されます。(震災時は非常階段での将棋倒しなど、多くの傷病人の発生が予測されています)水上タクシーという乗り物をご存知でしょうか？震災時には、水上タクシーに医療関係者が同乗し、傷病人を搬送する。ドクターボート計画。

水上タクシーを使えば、芝浦、港南、台場から、江東区や中央区の災害拠点病院の棧橋まで約15分で搬送できるのです。

反対する漁業関係者を説得し、平成31年3月からワルドシティータワーズの棧橋でも水上タクシーが使えるようになりました。今後一層充実させるよう努力していきます。

ドクターボートの取り組みはTVニュースでも報道されました。



30秒で
理解できる



防災ニュース
①



30秒で
理解できる



防災ニュース
②